

読みたい・知りたい・学びたいに
応える学校図書館

すべての学校に
学校司書を！



小学校・中学校・高校・特別支援学校のすべての学校に通う児童・生徒にとって、学校図書館は、豊かな人間性、生きる力を育む大切なところです。学校図書館には、学校司書の存在が不可欠です。将来的な学校司書の定数化や専任・専門・正規の学校司書の全校配置が望まれます。

学校図書館ってこんなところ



お気に入りの本は見つかりましたか？

公立小学校 学校司書

『お気に入りの本は見つかりましたか？みなさんが6年間に読んだ本の中で出会った言葉たちが、これから先の“道しるべ”や“心の支え”になるといいなあと、思っています。』卒業文集に寄せたメッセージです。毎日、こんな気持ちで、本と子どもたちに囲まれて、仕事をしています。

今年は、シークレット・ブックをやってみました。絵馬を作り、図書委員さんが推薦文を書いて、ボードに張ります。文を読んで気に入った絵馬を外して、カウンターに出し、その本を借ります。が、本は中が見えないように包装してあるので、タイトルは、「開けてからの楽しみ！福ブック！」と、なりました。本にも絵馬を張り付け、借りた人からも、メッセージをもらいます。短い推薦文をたよりに、新しい出会いをしてもらいたいと思って。

委員会指導では、私がそうしているように、「お仕事は、明るく楽しく元気にしよう！」と呼びかけています。今回の企画はそれにぴったり！借りる人も貸し出しの人も楽しくできました。限られた時間（1日4時間）の中で、準備をし、新規購入本の受け入れ作業、修理、本棚の整理、カウンター対応など、さまざまな仕事に追われ、いつも時間が足らず、持ち帰り仕事になる事もしばしばありますが、子どもたちにパワーをもらって、元気に仕事ができています。大好きな児童書に囲まれて、「この本面白かった！」「ハリーポッター読み切ったよ！」と、子どもたちと、本の話ができる事に幸せを感じる毎日です。

さぁ！次はどんなコトをしましょうか…？お買い物もテレビもネットも、楽しい企画のヒントを求めて、アンテナを立てています。全ては、子どもたちと楽しむ為に！



「開けてからの楽しみ！福ブック！」いろいろ

授業を支援して

県立高校 学校司書



電子黒板とタブレットを使って発表する生徒

本校は伝統ある進学校で、3年前に附属中学校ができ、併設型中高一貫校になりました。図書館は中学生と高校生が一緒に使っています。

高校1、2年生は「社会と情報」の授業で、年間を通じて図書館で授業を行っています。「学び方の学び」をテーマに、課題を設定し、調べて、まとめて、発表するという探究型の学習を行いながら、探究に必要なスキルの学習もしています。この時間については、学校司書は、担当の先生と連携して、学習内容の決定から関わり、調べ方の基本になるような資料を用意して説明を行い、調べる活動が始まると、生徒の求める資料を用意しています。

高校1、2年生全員での探究学習が始まって半年ほどで、本校は県のICTのモデル校に指定され、タブレット端末45台と電子黒板が配備されました。これによって、本だけではなく、インターネットの情報や新聞のデータベースも、図書館ですべて使えるようになり、生徒の学習はとてもスムーズになりました。また、どんな本が出版されているかや、公共図書館の蔵書検索もできるようになったため、リクエストは飛躍的に伸びて4倍になりました。そうなるリクエストすべてを購入することは予算的にも困難で、公共図書館や他の学校からの相互貸借も相対的に多くなり、年間の購入冊数より多い約1000冊を借りて資料提供をしています。貸出数も中学生の貸出がとても多いこともありますが、一人当たり20冊を超えています。また、授業の利用は約300時間です。

このような授業は、正規の学校司書がいて、いつでも対応できることで、はじめて成り立っていると思います。また、本の検索を行う利用者用のパソコンすらない学校もある中で、本校の環境は恵まれているが、生徒たちの知りたいこと、調べたいことに応えるための資料提供を行うには、予算が少ない状況です。

障害児学校にも学校司書の配置を

特別支援学校 教諭

本校は聴覚に障害をもつ、ろう、難聴者を対象とした聴覚特別支援学校で、就学前の乳幼児から幼稚部、小学部、高等部本科、高等部専攻科まで、0歳から20歳までの幼児、児童、生徒が在籍し、学校生活をおくっています。

聴覚障害者の情報入手は、視覚からがほとんどです。校内でのコミュニケーションも手話が中心で、他には筆談や、絵、画像などを通じての方法となります。したがって、低年齢の頃から、本に親しみ、読書を通じて情報を入手したり、学習したりすることはとても有効です。しかしながら、ろう学校をはじめ、障害児学校には、学校司書が配置されていない学校が多く存在します。

本校にも学校司書は配置されず、学校司書OGの2名のボランティアの方々に、週1回図書館の書架整理や新着本の装備等をしていただいています。ボランティアの方々は「司書の仕事がこの程度のもので誤解されたら逆効果だね…」とおっしゃりながらも、来校した日には、児童生徒たちとも丁寧に関わってくださいます。「ダンゴムシの飼い方は？」「ウンチはトイレからどこへ行くのか？」といった、子どもたちの日々の生活の中で生まれた疑問・質問にも、答える本を提示していただきます。しかし一方で、子どもたちの要望や利用の実態を把握し、迅速に対応するといった任務は、当然の事ながらボランティアでは担いきれません。

障害児学校においても、専門知識を持ち、図書館担当の教職員と協力しながら学校図書館運営の中心となる学校司書が必要不可欠です。障害児学校を含め、全ての学校図書館が児童生徒たちのいきいきと活動できる場となるよう、専任・専門・正規の学校司書の配置を進める運動が大きく前進することを切に願います。



図書館の外にも、図書の展示コーナーがあります

すべての学校に 専任・専門・正規の学校司書の配置を！

学校図書館は児童生徒にとって最も身近な図書館です。

読みたい・知りたい・学びたいに答えるいきいきとした学校図書館には十分な図書費や環境の整備が必要ですが、何よりも職員（専任・専門・正規の学校司書）の配置が不可欠です。

しかし、学校司書の配置はまだまだ不十分です。下のグラフにあるように、小中学校では配置率こそ増加していますが、その多くが非正規で、中には3校以上掛け持ち、週に1日しか司書がないというケースもあります。

年々下がっていた高等学校の配置率は、今回は横ばいですが、常勤率は下がり続けています。高等学校では近年、事務室や実習・実験の補助など校内での兼務が増えています。

2014年の学校図書館法一部改正を受け、文部科学省は「これからの学校図書館の整備充実について(報告)」をまとめ、全国的な教育水準の確保のために「学校図書館ガイドライン」および「学校司書のモデルカリキュラム」を作成し各都道府県教育委員会、大学等関係機関に通知しました。また、下記の第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」を設定し、地方財政措置を講じています。

今後は各自自治体でこれらの方針や計画を早急に予算化し、実効あるものとするのが重要です。

さらに、子どもたちが学校図書館を通じて読書の喜びを知り、豊かな人間性を育めるよう、抜本的な法改正を行い、すべての学校に専任・専門・正規の学校司書の配置を進める必要があります。

公立学校の司書配置率(%)

文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」より



第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」

— 文部科学省による2017年4月からの地方財政措置 —

平成29年度～平成33年度5か年計：約2,350億円

- 図書整備費：約1,100億円<増加冊数分：約325億円 更新冊数分：約775億円>
- 新聞整備費：約150億円
小・中学校等：約100億円<小学校等：1紙(約50億円) 中学校等：2紙(約50億円)
高等学校等：約50億円<高等学校等：4紙>
- 学校司書配置費：約1,100億円<小・中学校等の概ね1.5校に1名程度の配置>

*これまで単年度措置だった学校司書配置費が、5か年計画に位置付けられています。

また、これまで概ね2校に1名だったのが、1.5校に1名と増加しました。

*初めて、新聞整備費として高校を対象とした予算がつけられています。

発行：全日本教職員組合 学校司書部・学校図書館職員対策部

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1全国教育文化会館3階

TEL：03(5211)0123 FAX：03(5211)0124 Email：zenkyo@educas.jp